

防災キャラバン・市町等連携事業

平成23年4月28日にボランティアバス（みえ発！ボラパックⅠ・Ⅱ）の運行を開始して以降、平成25年9月14日発のボラパックⅡ第35便まで、のべ1,290名のボランティアが岩手県山田町に継続して活動しました。この多くの人材が山田町で得た知識や経験は、やがて起こるであろう南海トラフ地震等の災害において、大きな力となります。

3年目となる今年、三重県内各地において、このボランティア経験のある方々と、企業・労組、地域の市民や行政、関係諸団体の方々との間に、平素からの交流が生まれるような機会を設けるべく、防災キャラバン・市町等連携事業「大規模災害、そのときボランティアができること」を開催しました。

事業の概要は、地域住民や行政、社協、自主防災組織、企業等、災害ボランティアに関心ある方々を対象に、東日本大震災の被災者または支援者による講演と、みえ発！ボラパック参加者による活動報告です。防災/災害ボランティアの担い手のネットワークを地域に構築するきっかけを提供することを目的に、いざ地元で大規模災害が起こった時にどんなボランティア活動が必要とされるのか、参加者と共に意見交換を行い、平成25年7月～11月末までに県内各地で13回実施しました。

第1回 名張・伊賀

日時：7月14日

場所：名張市つつじが丘公民館

基調講演：「3.11ふるさとを語り継ぐ」

菊池 清太 氏（元釜石市立甲子小学校 校長）

ボラ活動報告：2名

参加者数：89名



第2回 津

日時：7月15日

場所：みえ市民活動ボランティアセンター

基調講演：「3.11ふるさとを語り継ぐ」

菊池 清太 氏（元釜石市立甲子小学校 校長）

ボラ活動報告：2名

参加者数：26名



第3回 学校・教職員

日時：8月24日

場所：メッセウイング・みえ

基調講演：「東日本大震災というペール」

黒澤 克行 氏（岩手県立大槌高校職員）

ボラ活動報告：3名

参加者数：22名



第4回 多気

日時：9月20日

場所：多気町社会福祉協議会

基調講演：「日頃の近所付き合いから大災害を乗り越える」

阿部 秋子 氏（山田町消防団第3分団婦人消防協力隊長）

ボラ活動報告：2名

参加者数：51名



第5回 伊勢

日時：9月21日

場所：いせ市民活動センター北館

基調講演：「日頃の近所付き合いから大災害を乗り越える」

阿部 秋子 氏（山田町消防団第3分団婦人消防協力隊長）

ボラ活動報告：2名

参加者数：54名



第6回 鈴鹿

日時：9月29日

場所：天澤山 龍光寺

基調講演：「東日本大震災における消防団活動」

大石 秀男 氏（岩手県山田町消防団副団長）

ボラ活動報告：2名

参加者数：84名



第7回 桑名

日時：10月6日

場所：長島輪中図書館

基調講演：「東日本大震災を経験して」

大宮 好子 氏（山田町在住 仮設団地区長）

ボラ活動報告：2名

参加者数：32名



第8回 UR笹川団地

日時：10月7日

場所：UR笹川団地集会所

基調講演：「東日本大震災を経験して」

大宮 好子 氏（山田町在住 仮設団地区長）

ボラ活動報告：2名

参加者数：48名



第9回 四日市

日時：10月18日

場所：四郷地区市民センター

基調講演：「避難所の運営と実情」

狩野 英夫 氏（山田町在住 避難所を運営）

ボラ活動報告：2名

参加者数：82名



第10回 紀北

日時：10月19日
場所：紀北町社会福祉協議会
基調講演：「避難所の運営と実情」
狩野 英夫 氏（山田町在住 避難所を運営）
ボラ活動報告：2名
参加者数：36名



第11回 伊賀

日時：10月19日
場所：ゆめぼりすセンター
基調講演：「遠野まごころネットに学ぶベースキャンプ地としての被災地支援」
多田 一彦 氏（(特非)遠野まごころネット理事長）
シンポジウム：「伊賀は遠野になれるか」
参加者数：59名



第12回 企業・ 労組

日時：11月9日
場所：三重県勤労者福祉会館
基調講演：「東日本大震災 産業の復旧・復興について」
湊 敏 氏（岩手県山田町観光協会事務局長）
ボラ活動報告：2名
参加者数：91名



第13回 松阪

日時：11月15日
場所：松阪市産業振興センター
パネルディスカッション：「ニーズ・ボランティアの移り変わり」等
パネリスト：福士 豊 氏、阿部 寛之 氏（(社福)山田町社会福祉協議会 職員）、みえ発！ボラパック（I、II）参加者
参加者数：79名



第5回 伊勢



第9回 四日市

■ 来場者アンケートより（抜粋）

基調講演、ボランティア活動報告を聞いての感想

- ◇ 三重で災害が起こった時にも考えるべきところがたくさん聞いた。
- ◇ 災害時、どのような状態になるのか、どう行動すべきか考えさせられた。
- ◇ 今になって眠れないという話に、心が痛む。
- ◇ ずい分辛い体験をされたのに、今は明るく、周囲の方々に接しておられる事、素晴らしいと思いました。
- ◇ 参加された方が、出会いとつながりを強く感じたと話されたことが、印象的だった。
- ◇ ドロかき以外の仕事もあることが判った。
- ◇ 今まで物的ボランティアのみ思っていたが、精神的ボランティアも加えて、なにができるか勉強していきたい。
- ◇ 私には、とても災害ボラは無理・・・と思っておりましたが、体力が無くても出来る事があるんだと、わかりました。
- ◇ 自分がボランティアに行ったときのことを思い出しました。決して忘れてはいけないのですが、自分の中でも風化していることに気付かされました。
- ◇ 災害ボランティアのイメージが、変わりました。



第7回 桑名



第13回 松阪



第1回 名張・伊賀

わが町で大規模災害が起きたとき、あなたがボランティアとして活動するためには、今、何が必要だと思いますか？

- ◇ 防災、減災の勉強をし続ける。知識と訓練。
- ◇ 心構えと防災準備とシミュレーション。
- ◇ 今はまだ漠然とした状況で、どうしたら良いか分からない。
- ◇ ボラ活動の輪を広げる。
- ◇ 減災への心構え。日頃のネットワーク。
- ◇ ネット音痴なので、その関係のスキルアップかな。
- ◇ これから、考えてみます。
- ◇ 情報キャッチ、講座等を受けて、知識・技術をつけておく。
- ◇ 各個人が、災害を重く考えてほしい。
- ◇ 日頃の近所づきあいをよくするように一層つとめたい。